

第8章

これからの生活

岸 佑太

1 本稿の目的と調査対象者の概要

本章において、調査対象者（以下、対象者）の生活実態から紡ぎ出された過去へのまなざし¹⁾から、未来に目を向けてみたいと思う。調査班は対象者に対して、「若者に一言」という質問を行った。若者への感情及び会話の中から抽出した「これからの生活」という未来に向けた対象者の思いに対して目を向けることで、単身高齢者の実態を見ていきたい。第3章で触れた「英知と統合」となる老年期の「未来を見る」ということに触れていきたい²⁾。

2 調査結果

(1) 今後の展望／若者に一言

- ・調：1番不安なことであったり、心配なことってゆうのはありますかねぇ？
A：心配ゆうなんは、ないけど、やっぱし急に病気になったら、ねえ、変に
調：うん。
A：なったときはどうしたらいいかなと
調：うん。
A：思うけど。まあ、そうなる前は兆候があるしねえ。
調：うーん。
A：分かると思いますし、自分で。ま、救急車呼んだらええやと思て。(A-1³⁾)
- ・B：なあ。いや、ちょっと私動けなくなったらね、そりゃあ、ごはんね、今は別にお米も研いで、今も簡単に何でも、それは電子レンジだしね、少しなら切りもんも自分でね、まあ手動きますからね。(中略) 必死でしてんですけどね、それがもしね、歩けなくなったらね…(b-1)

1) 詳細は「生い立ち・生活信条」を参照。

2) 表1の詳細、山科区における単身高齢者の概要は「生い立ち・生活信条」の章を参照。

3) (a-1)は「巻末資料1 Aさんの①より抜粋」を意味する。以下同。

- ・ B : 去年の夏…去年の5月に…今年やな。いっぺん、一人で生活してるけどもね、もし共同生活だったらどんなにかと思ってね、ケアマネージャーさんが申し込んでくれはって、3泊4日で(有料老人ホームのお試し入所へ)行ったんですよ。(b-2)
- ・ C : そやけどなあ、ホーム、…老人ホーム、それもケアマネの人に頼んだんどうす。どことうええとこあるか言うて。(中略) 中途半端にまた入院すんのかなんざかいにな。
調 : (中略) そういった先々のことも考えておられるんですか?
C : 考えてます。(c-1)
- ・ 調 : 何か一人でしてて心配事であったりとかはありますか?
D : 心配事か…何にもない。心配するほどの財産もないし。あとは好きに使ったらええと思うし。そんなんや。(d-1)
- ・ E : さみしいでっせ、1人ジッと…。夜(目が)開いたら1人どすやろ? このまま死ねたらなあって思うとき、なんぼあるやわかりやしまへんで。朝目開かんと、そのままズーッと死んでったら…
調 : 夕方が特にさみしいって言いますねえ。
E : そうどっか?!
調 : ではないですか?
E : なんともおへんで。
調 : いつぐらいが“さみしいな”って気持ちになりますか?
E : やっぱり寝られへん時や。(e-1)
- ・ F : (若者へ一言なんて) そんなのは私からは言えない。来てくれはっただけでも、嬉しい。(中略) 要求することはないわ。できることならたびたび来てほしい。寂しいから来てもらっただけで、楽しい。ただ、話相手に来てもらったら。それだけ。(f-1)
- ・ 調 : お母さんね、若い人らに何かアドバイスはないですか?
J : 立命の学生さん? あ、ほんま。よろしいやん、学生時代が一番よろしいよ、ねー。なんというても。(j-1)
- ・ 調 : ご自身のことで困ってることありますか?
K : 鼻悪いですやろ、(中略) 後は、お金です、ぎりぎりの生活でしょ。ちょっと贅沢したら、苦しくなります。息子にかりようとしたら、怒られます、「だからいうたじゃないか、無駄なもの買ったらいけん」って。無駄ものなんて買ってないです。いらぬものなんて何もないですよって。「どんな使い方をしてるんなら」って言われますけどね、私も仏さまじゃないですからね。人付き合いもあるでしょ。男だからわからないんです。嫁さんも、60になったらわかってもいいもんですけどね。「そんなんいうんやったら、もうお金いらんわ」って怒りましたら、5千円くれるんです、「すみませんね、次の年金がはいったら返します」って。(k-2)
- ・ M : 私は昔の人間やから、昔の人を想像するからね。昔こうやったああやっただって。そういうことを思ってたらきりがない。昔とは全然違うから。(m-1)
- ・ 調 : 私らにアドバイスできることでもいいですけど。
N : あのなあ、世の中なあ (中略) がんじがらめでなあ、金持ちが好き放題してる

世の中や。金持ってるやつが優先なんやな、(中略)(若者は)夢は自分で作って
いかなあかんねんなあ。(n-2)

・調：何か話したいっていう気持ちはありますか？

O：うーん…、色んなことをね、話したいけれどもそういう話題がないわけよ。

調：ああーなるほど…。話題…。

O：世間にずーっと毎日出歩いてるんと違うからね。(o-1)

・O：うん…。人に合わせるっちゅーことは一番難しいわ。

調：なんかねえ、気を使わずにこううまいことできるようになればいいですけどねえ。まあ…(笑)

O：その難しさがね…。

調：まあまあ、そのために僕ら今聞き取りに回ってるんですけどねえ。

O：うんうんうん。まああの一何軒いかはるのか知らんけどね、皆ひとりひとり言う事は違うと思うよ。その病人とその病人を看護してる人との、また言うことと聞くことと違うと思うわ。そのねえ、各家庭行ってね、そういう聞き取りして、記入して、そして帰って、ああこうやったなあ、ああやったなあって色々区分けせないかんわけでしょ？

調：うーん、そうですね。

O：難しいと思うよ。

調：ほんで、おんなじことっていうのもあるし、また全然違うことっていうのもねえ、ありますしねえ。

O：そうそうそうそうそう。…また何かむつかしいわ。聞いて歩くのもむつかしいわあ(笑)

調：(笑)(o-2)

・P：そうですねえ、若い方も色々ですので…一概にどう、でしょうねえ…。やっぱり頑張ってる方は頑張ってるし、もーうでも、一般的にみると、やっぱり目先のことで動く人、若い人は今時の若者やなって感じることはありますねえ。(中略)一般的に見たら、ちょっと、昔の若い人とは違いますね。それはもう時代の流れですよ。だからしょうがないですわ。いまはこんな、愚痴ゆったってねえ、年寄りが(笑い)。時代が時代やから、今の時代はそんなやろなあと思って見てるんやけどね…(中略)まあ親じゃないんやけどね私。親がしつけするんやし私がせんでもいいんやけども(笑い)、ついつい見てると言うてしまう(笑い)。やっぱり言うといてあげたほうが、あの子のためかなあ思ってる。将来、今はわからへんでも、わかる時があると思うんです。ああおばあちゃんこんなこと言うてたなあとかね。思い出してくれたら良いわと思って。(p-1)

①今後の不安要素、健康について

今後の展望に対しての不安要素としてはまず「健康」についてがあげられる。「心配ゆうなんは、ないけど、やっぱり急に病気になったら、ねえ」(a

—1) や、「ちょっと動けなくなったらね、今も (中略) 必死でしてんですけどね、それがもしね、歩けなくなったらね」(b—1) という意見が見られたが、「まあ、そうなる前は兆候があるしねえ。(中略) ま、救急車呼んだらええやと思って。」(a—1) という意見が見られたほかに、積極的に福祉サービスを活用するという意見も多数みられた。「3泊4日で (有料老人ホームのお試し入所へ) 行ったんですよ。」(b—2) というBさんや、「どこがどうええとこあるか言うて…老人ホーム、それもケアマネの人に頼んだんどす。」(c—1) などのように、福祉サービスの利用を含めて将来を考えている方は多い。

②今後の不安要素、金銭、感情

金銭的に不安を感じている単身高齢者の方もいた。「鼻悪いですやろ、(中略) 後は、お金です、ぎりぎりの生活でしょ。」(k—2) と語るKさんは、「無駄ものなんて買ってないです。いらぬものなんて何もありませんよって。」(k—2) とその切り詰めた生活でも金銭的な負担の大きさがうかがえる。金銭的不安は福祉サービスの利用の見通しと密接に関わっていると考えられるため、金銭的不安を取り除くことは福祉サービスの推進にとって重要な課題であると言える。

また、本調査において印象的であった意見として「寂しい」という感情に多くふれたことである。この「寂しい」という感情も福祉サービスを利用したいという思いに繋がる要素であると推測される。在宅福祉の推進を図るうえで、孤独という問題は切っても切れない関係にあると考えられる。例えば、「さみしいでっせ、1人ジツと…。夜 (目が) 開いたら1人どすやろ？このまま死ねたらなあって思うとき、なんぼあるやわかりやしまへんで。」(e—1) と語るEさんや、「若者へ一言お願いします」と質問したら「来てくれはっただけでも、嬉しい。(中略) 要求することはないわ。できることならたびたび来てほしい。寂しいから来てもらうだけで、楽しい。ただ、話相手に来てもらったら。それだけ。」(f—1) と語ったFさんはその思いが強い。しかし、逆に「何か話したいですか？」と尋ねても「世間にずーっと毎日出

歩いてると違うから」(o-1) 話題がないと話すOさんの意見は思慮に富む。「話したい」という感情の萌芽は話題があることが前提である。Oさんの場合は話をする話題を共有するという関係性を共有するところから始めなければ「話をしたい」という感情にまで結びつかないということがわかる。

③若者に一言

若者に対するアドバイスを求めたこの質問に対しては様々な意見が聞かれた。上述したFさんの意見のように「話をしたい」というものから、「学生時代が一番よろしいよ」(j-1) というJさんの意見がある一方、Pさんからは「頑張っている方は頑張っているが」という前置きのあと、「やっぱり目先のことで動く人、若い人は今時の若者やなって感じること」(p-1) があり、孫に苦言を呈す時も「将来、(中略)わかるときがあると思うんです。(その時) 思い出してくれたら良いわと思って」話すようである。また、Nさんは「(若者は) 夢は自分で作っていかなあかんねんなあ」というように、叱咤激励をされた方もいた。

3 考 察

今後の展望に関しても、単身高齢者の方々それぞれがそれぞれ違う思いを持ちつつ毎日を過ごし、そして将来を見据えている様子がうかがえる。悲観的、楽観的というように二文法で分けることも可能ではあるが、大方の単身高齢者の方は「悲観的であり楽観的」であった。「世間を知らない」ので話す話題がないと語る寝たきりのOさんは、話をしたい(コンタクトしたい)という願望の前に、話題がないということで、その願望に到達することがない。「話をしたい」というFさんは話をする相手がないということで、その願望を叶えることができない。AさんやBさん、またCさんも有料老人ホームに行くことに対して前向きであるという事実はその背後に「不安」であったり「寂しい」という思いがあるからではないであろうか。

「孤独」は私たち若者も有する感情である。では孤独という感情はどのようにして低減させることが可能か。その答えの一つは単身高齢者の語りに内

包されているのではないであろうか。本調査において聞き取りをした単身高齢者の中には積極的に社会的活動に携わり、その経験を話された方も多かった。彼／彼女らはその思い出を私たちに明るく、楽しく語ってくれたわけである。故に「地域における活動を通して連帯すること」ここに一つの活路が見出されるのではないか。現にWHOが1986年に提唱した「ヘルスプロモーション⁴⁾」によると新しい健康づくりとしてのヘルスプロモーションの活動方針は①健康的な公共政策、②健康を支援する環境、③地域活動の強化、④個人技術の開発、⑤ヘルスサービスの方向転換、とされている。公共政策、健康支援の次に地域活動があげられていることを見ても、健康維持に地域活動が重要な要素であるということが伺える。孤独死防止に対して地域活動が重要な役割を示した事例は多く見られる⁵⁾。地域における活動の推進は今後より重要になるであろうが、地域の実態を知り「臨床から学ぶ」という姿勢を持ち続けなければその意義は十分に叶えられないであろう。

〈参考文献〉

- アタナーズ・ベリファン. (2008). 隣人祭り. ソトコト新書.
佐藤俊一. (2004). 対人援助の臨床福祉学. 中央法規.
山科区第2期地域福祉活動計画策定委員会. (2008). 地域に一人で暮らす高齢者の問題—単身高齢者の生活実態に関する調査結果. 山科区社会福祉協議会.
星旦二. (2009). 都市高齢者の健康とヘルスプロモーション. 保健医療社会学論集 No.19 Vol.2, 1-7.

4) 詳細は星旦二『都市高齢者とヘルスプロモーション』保健医療社会学論集19-2, 2008を参照。

5) 例えばA. ベリファン『隣人祭り』ソトコト新書, 2008

資料1 「これからの生活」に関する記述抜粋

Aさん(81歳、女性)

①

調：1番不安なことであったり、心配なことってゆうのはありますかねえ？

A：心配ゆうな人は、ないけど、やっぱし急に病気になった、ねえ、変に

調：うん。

A：なったときはどうしたらいいかなと

調：うん。

A：思うけど。まあ、そうなる前は兆候があるしねえ。

調：うーん。

A：分かると思いますし、自分で。ま、救急車呼んだらええやと思て。

調：あー。

A：それは思ってます。もうそれしか手ががないからねえ。

Bさん(88歳、女性)

①

B：なあ。いや、ちょっと私動けなくなったらね、そりゃあ、ごはんね、今は別にお米も研いで、今も簡単に何でも、それは電子レンジだしね、少しなら切りもんも自分でね、まあ手動きますからね。そしてまたご飯食べたらやっぱり並べたら、また汚れるでしょう。それも全部こんなんして。「どうしてるの」って言うから、「うちで全部してる。」言うたら、「まあ」言わはんの。ねえ、こんな格好でトイレ行くでしょう、そしたら足が悪いから「うちで、食べるものどうしてはんの？」言わはるからさ、「冷蔵庫から出してね、ちゃんとあれしてね、料理も自分である程度のもん作れるしね、食べたものは汚れるしね、洗ってね、またつけてね、拭いて、全部片付けとくよ」って言うたら、「ああそうなの」言うてはるんですよ。必死でしてんですけどね、それがもしね、歩けなくなったらね…

②

B：ケアマネージャーさんがね、Mホテルの今ね、あそこにあったりするんですけど、毎週式になってるんですって。6畳ほどでね、まあ、その代わりね、あの、まあ一通り、ガスは危ないけど、電気製品やらこんなんが一通りあって、それが2千万から3千万ですって。

調：有料の老人ホームですね。

B：〇〇さん、そういうところは入ってるのかな。「私の係りじゃないからわからんけども、入ってはるんちがいますか」っていう話でね。

調：一般のね、普通の老人ホームとか、施設でもね、個室があつてね、なんかこの、昔とは違いますよ。個室があつて、自分の好きなものを置くこともできる。なかなかいいところありますよ。

B：そうですね。去年の夏…去年の5月に…今年やな。いっぺん、一人で生活してるけどもね、もし共同生活だったらどんなんかと思つてね、ケアマネージャーさんが申し込んでくれはって、3泊4日で行ったんですよ。私好きなようにしてんでしょ、そしたらね、3畳ほどの部屋で、カーテンで、向かいに男の人がいはるんですよ。こっちの人はね、いいんだけどね、もう何かをおとしてるんですよ、もうそんなんでもね、男の人ばけてるからね、もう夜中の12時にテレビかけたり、朝6時からもう、止めないで入ってるんです。

調：あちこちのをね、見学に行かれたらね、なんか、ぴったりのがあるかもしれません。最近ね、ちょうど私の母親も、行ってるんだけど、このぐらい、もっと広い部屋にトイレがあって、でその、真ん中にリビングみたいなところがあるんですよ。その周辺に個室がぼんぼん、と10部屋くらいあって、真ん中はみんなでリビングでいろいろする。それみんな終わったらみんな自分の部屋に入る。

B：カーテンでしょ？

調：いや、カーテンじゃない、普通のドア。うん。カーテンで閉め切ってるのは、大部屋で雑居部屋だから。ちゃんとドア。そういう個室式のね、あの…

B：マンションみたいのね、そのかわり2、3千万でね。いざというときはそういうのはね、都ホテルのあそこにも、3千万からね。みんなそういうふうになってるんですかね。

調：そんなことじゃなくてもね、あの…ありますあります。桃山のほうにあるんですよ。桃山というね、あの…老人ホーム。そこも、そんな個室です。最近新しいのはみんなそんな感じ。

B：うちにもこんなでてるからね、パンフレット見てるんですけどね。

調：有料老人ホームは高いんでね。高くても、ほんとに介護状態になった時には。

B：これ使わないってことは、車椅子に乗らならんってことでしょ。そしたら普通のところでも車椅子の人はまた5万以上のお金がかかるし、風呂でも自分で入れないでしょ。なんとか入らずにここで死んで…って思ってるんですよ。だけどねえ、なかなか。まあねえ。

調：ヘルパーさんなんか、要介護度がもうちょっと上がったら、もっと利用できる範囲がでてくるじゃないですか。

B：できればね。この間もね、Iさんが、「Bさんそういうときはまたね、私探してあげる」って言ってね。でまた、私もまあ、そんな程度で子供に迷惑かけないようにね、あの…ちよっと頑張って個室入ってもいいように、そのくらいのことはためてあるんですよ。自分でぼんぼんぼんぼんとなあ、行きたいとこあったら好きなとこに入ったらいいって息子たちに言われるんですけどね。

③

B：うん、たっしやでしょ。でも足だけはね、こんななんと思わなかったからね、3年ぐらい前までは、まあ私考えたらね、いい人生だったってね、思ってたんだけど、今ここへ来てがくっときて、結末…なんでこんな惨めになったのかなあと思って…。

Cさん (82歳、女性)

①

C：ふん。ほんでこれがマンションやとね、コンクリートのとここうして歩いてたらええし、干し場も低いしいけど、ここは石でガラガラしてるとこ行きますやろ。そやけどなあ、ホーム、…老人ホーム、それもケアマネの人に頼んだんぞ。どこどうええとこあるか言うて。やっぱりここでもしものことがあったら、中途半端にまた入院すんのかなんさかいにな、ちよっと教えてっちゅうてたんやけど。ほなそんなとこ行ったら洗濯物干すぐらい、出来ることはせんならんし、じっとしてたらあかんわ思ってるけど、一服しもって一服しもって。

調：一応はそういうった先々のことも考えておられるんですか？

C：考えてます。やっぱり世間の人の話聞いてると、づけづけっと自分の生んだ子には言わはるけど、それ考えたら私はしんどいめして生んでへんのやで偉そうに言えんと思て。ハハハ。

調：でもねえ、育てたんやからねえ。

Dさん (81歳、女性)

①

調：何か一人でして心配事であったりとかはありますか？

D：心配事が…何にもない。心配するほどの財産もないし。あとは好きに使ったらええと思うし。そんなんや。

Eさん (91歳、女性)

①

E：そうそうそう。さみしいでっせ、1人ジッと…。夜（目が）開いたら1人どすやろ？このまま死ねたらなあって思うとき、なんぼあるやわかりやしまへんで。朝目開かんと、そのままズットと死んでったら…

調：夕方が特にさみしいって言いますねえ。

E：そうどっか？!

調：ではないですか？

E：なんともおへんで。

調：いつぐらいが“さみしいな”って気持ちになりますか？

E：やっぱり寝られへん時や。

調：ああ…寝られへん時…

Fさん (82歳、女性)

①

F：そんなのは私からは言えない。来てくれはっただけでも、嬉しい。あ、あの、デイの若い人でもな、みんなお宅達みたいにやさしいし、要求することはないわ。できることならたびたび来てほしい。寂しいから来てもらうだけで、楽しい、わかったら、今度はお茶やらお菓子やら一緒に食べてな、ただそれだけ。なんか要求することはない。ただ、話相手に来てもらったら…。…それだけ。

②

調：たいしたものじゃないですけど…（粗品を渡す）

F：そんなん、いちいち。また、来てな、それだけ。さっき言ったことだけ。

調：はい。

F：仕事じゃなく、ただお茶飲みにきて。

調：はい、わかりました。

Jさん (84歳、女性)

①

調：お母さんね、若い人らに何かアドバイスはないですか？

J：立命の学生さん？あ、ほんま。よろしいやん、学生時代が一番よろしいよ、ねー。なんというても。

Kさん (87歳、女性)

①

K：100になっても、親はね、ね、子どもがかわいい（涙ぐみながら）病気になったら、余計。長生きしてほしい、ほんで、いうてある。お母さんが死ぬまで死んだらあかんって。二人の息子に、体大事にしてやって。お母さんはかまへん。今死んでもいい。歳やから。あんたたちは長生きして、立派にけつたいなことをしたらいけん。

②

調：今ね、息子さんのこと以外でご自身のことで困ってることありますか。

K：息子以外では、鼻悪いですやろ、それもお母さんがかかってきてくれてね。薬ないと歌歌えませんやろ。後は、お金です、

調：ああお金ね。

K：ぎりぎりの生活でしょ。ちょっと贅沢したら、苦しくなります。息子にかりようとしたら、怒られます、「だかたいうたじゃないか、無駄なもの買ったらいけん」って。無駄ものなんて買ってないです。いらぬものなんて何もありませんよって。「どんな使い方をしてるんなら」って言われますけどね、私も仏さまじゃないですからね。人付き合いもあるでしょ。男だからわからないんです。嫁さんも、60になったらわかってもいいもんですけどね。「そんなんいうんやったら、もうお金いらんわ」って怒りましたら、5千円くれるんです、「すみませんね、次の年金がはいったら返します」って。

調：年金はご主人の遺族年金ですか。

K：いや、そんなものはありません。

調：そうですね、一緒のやっつけられましたもんね。

Mさん (91歳、女性)

①

M：私は昔の人間やから、昔の人を想像するからね。昔こうやったあやっただって。そういうことを思ったらきりが無い。昔とは全然違うから。

調：ううん。

今と昔の若者やったら、昔の人のほうが強いですか。

M：そりゃねえ、今みたいに男の子で頭を長くしてる人はいないしね。えへへへ。

調：ああ、ははは。髪の毛ね。

M：男の子か女の子か分からない人いるもんね。中には。男の子かしら、女の子かしらって人もいりもんね、中には。

調：いますねえ。

M：そういうことだろうね。まあ時代の流れで仕方ないけどね。昔ちよんまげやっただのがあなっただんやからね。そういうこと考えたらね。

調：ははは。そうですね。またちよんまげに戻るんですかね。

M：初めは今の女の子は髪長くしてるでしょ？あれは夏は暑いんじゃないかなあって考えていたけれど、考えてみたら長い毛もいいなあって思う。暑かったら上に上げられるしね。

調：そうですねえ。

M：長い毛も自由になっていいなあって思う。上に上げようとするしよと、どうとでもできるから。短かったらそれできないしね。暑かったら上に上げとけばいいし、これはいいなあって、

長い毛の人。ははは。

Nさん（70歳、男性）

①

N：そんなもんな、人を人を見たら一遍で分かるわ。

調：あーそうですか。

N：こいつはやってくれるか、金もうけでやってるか、

調：ほおー。

N：あんなもんな、介護センターあるやろ？あんなもんは金でやつとるからなあ。デイセンターでもそうやな。750円とられるからなあ、風呂入るのにな。

②

調：じゃあ、最後にあの、若者に対してアドバイスっていうのはないですか？何か

N：若もんに対してのアドバイス

調：はい。

調：私らにアドバイスできることでもいいですけど。

調：ははは。

N：あのなあ、世の中なあ、今こんなに、まあゆうたら、がんじがらめでなあ、金持ちが好き放題してる世の中や。金持てるやつが優先なんやな、なあ？夢は自分で作っていかなあかんねんなあ。たとえばわしはこの歳になってなあ、まだ夢持っとるねん。

Oさん（92歳、男性）

①

調：何か話したいっていう気持ちはありますか？

O：うーん…、色んなことをね、話したいけれどもそういう話題がないわけよ。

調：あーなるほど…。話題…。

O：世間にずーっと毎日出歩いてるんと違うからね。

調：ああ、はいはいはい。ああー。

O：それこそテレビ見る以外に何もものないわけや。

②

O：うん…。人に合わせるっちゅーことは一番難しいわ。

調：なんかねえ、気を使わずにこうまいことできるようになればいいですけどねえ。まあ…（笑）

O：その難しさがね…。

調：まあまあ、そのために僕ら今聞き取りに回ってるんですけどねえ。

O：うんうんうん。まああの一何軒いかはるのか知らんけどね、皆ひとりひとり言う事は違うと思うよ。その病人とその病人を看護してる人との、また言うことと聞くことと違うと思うわ。そのねえ、各家庭行ってね、そういう聞き取りして、記入して、そして帰って、ああこうやったなあ、ああやったなあって色々区分けせないかんわけでしょ？

調：うーん、そうですねえ。

O：難しいと思うよ。

調：ほんで、おんなじことっていうのもあるし、また全然違うことっていうのもねえ、ありますし

ねえ。

○：そうそうそうそう。…また何かむつかしいわ。聞いて歩くのもむつかしいわあ（笑）

調：（笑）

Pさん（69歳、女性）

①

調：では、話がまた変わりますけども、まあそろそろお時間もあれなんでね、お昼までお邪魔しとるもんで、…申し訳ないんですけど、最後に、あの一、若者に対するアドバイスとか何か、ねえ、ご意見あれば、おっしゃっていただけたら。

P：そうですね、若い方も色々ですので…一概にどう、でしょうねえ…。やっぱり頑張ってる方は頑張ってるし、もう一つ、一般的にみると、やっぱり目先のことで動く人、若い人は今時の若者やなって感じることはありますねえ。しんどいことは嫌、楽しんでお金儲けしたい、そういうことを思う人が多いかなっていう風には思いますねえ。…まあ昔、の人間やから思うんやろうと思うのやけども、やっぱり、しんどいことしたあとには楽があるんやからね、やっぱりしんどい思いしないと、先の楽しみとか楽はないですよ。それが私が思うことなんです。そやし孫にも厳しく言うんですよ。時間とかがちょっと遅いとは嫌とか、仕事のことでもね、言うから、「あんた何にもね、お金儲けするのに楽はないよ。」って。やっぱりしんどいことしたら、必ずいいことがあんねやから、我慢してそれをね、やらないことには、しんどいから辞めて、また次行って、またしんどいからやめて、そしたらね、先、壁を乗り越えないことには先がないでしょう。だからその壁を乗り越えなさいって私言うんですよ。そしたらまた違うことがあるかもしれへん。後戻りばかりしてたらねえ、いつまでたつたってその繰り返しでしょ？せやから進歩はないんやからって私そう教えるんです。でもやっぱりそれは嫌やとか、もう、甘いこと言ってるけど、やっぱりそれは自分でやっぱり、今は一人やからいいけど、結婚して子ども持って、生活していこう思たらもつともつしんどいんやからね。そんな甘いこと考えてたらあかんで言うのと、そらわかってる言うけどね、理屈でいうてそらわかっているけどね、実際にへんから、孫もそらまだ、21ですしねえ、そこまで、考えがおよばへんのか、孫見ててもそう思いますし、やっぱり、出かけて電車の中とかで見てる限りではやっぱりねえ、あの一、どう言ったらいいんですか、電車の中でもこう座席がね、あるでしょ？そしたらこう、つめてね、座ってもらったら、しんどい人も座れるんやけども、間隔をこうあけて座らはるから、もうちょっとずつつめてもらうのも、言うのもこっちもちょっと、ねえ、言いにくいときもありますし。やっぱりねえ、若い方そう、もうちょっとねえ、そういうことも考えて、お互い譲り合って座れるように、あの一、マナーみたいなものを、ちょっと一、してくれはったら良いなあと思うこともあります。まあよっぽど杖もってはったりとか、見るからにもう、弱々しい方には譲ってあげることもありますし、ああえらいなと思って見てますけどね、皆が皆さん悪い人ばかりじゃないですよ。やっぱりいい人もいはるし、ああ、若いのにえらくなって思うこともあるし、やっぱりそんなんで色々ね、いはるから、まあ、だけど、一般的に見たら、ちょっと、昔の若い人とは違いますね。それはもう時代の流れですよ。だからしょうがないですわ。いまはこんなん、愚痴ゆつたつてねえ、年寄りが（笑）。時代が時代やから、今の時代はそんなんやろなあと思って見てるんやけどね…まあそれとかやっぱり、人の前で、あの一、お化粧直したりとか、電車の中でよくしてはりますよ。あれもちょっとねえ、醜いなあて思うこともあります。飲み物も食べ物も平気でもって、電車の中で、食べたり飲んだり、まあそんなもんいっぱいしてはりますしねえ、今の若い人は。でやっぱり、あの一、人の前ではやっぱりそういうことしたらあかんとか、人の、よその方見て私孫にそれも言うんですけどね、家でしてるのが自然に出るからねえ。「家でもそんなことしてたら外でも自然に出で。」って孫にも言うんやけ

ど、「わかってる、人の前でせえへん。」とか言うけども、その日常生活の癖ていうんは怖いものでね、出ますよやっぱし外へ出ても。やしそれはしたらあかんってゆって、言うんですけどね。まあ親じゃないんやけどね私は。親がしつけするんやし私がせんでもいいんやけども（笑い）、ついつい見てると言うてしまう（笑い）。やっぱり言うといてあげたほうが、あの子のためかなあ思っつて。将来、今はわからへんでも、わかるときがあると思うんです。ああおばあちゃんこんなこと言うてたなあとかね。思い出してくれたら良いわと思っつて。まあそういうこと…位かねえ。

調：私も肝に銘じときます。勉強になりました。ありがとうございます。